

県研究主題

豊かに感じ取る力を高めることを重視し、生徒一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 森元 勇気(県央地区)

<研究主題>

生徒の学びを生かす表現と鑑賞について～共同制作を通じた色彩学習の取り組み～

1 提案内容

題材設定の主軸として、実物を見ること・他者と交流して作品を味わうことを中心に考えた。鑑賞の対象としては「共同制作で生み出された作品」に重点を置いた実践的研究である。本研究における実践は、受動的な鑑賞活動ではなく、一つの「価値創造の行為」として、また、時代の要請に応えることのできる鑑賞活動としての一つの手段として提起できると考えるものである。

(1) 授業実践の例

生徒の学びを生かす授業とは生徒が心で感じる授業である。そのために必要なことは、授業改善である。授業後、生徒の授業の振り返りシートを読み、授業の内容を検証し、改善をして、それを繰り返していくことが大切である。

① ペットボトルを使った色彩学習

ア 最初に色の仕組みについて学習をする。ここでは、三原色程度に抑えた学習をする。

イ 制作は、グループごとに色相環の範囲を決定し、次にペットボトルに水を入れて、アクリル絵の具を水にときながら、基準となる色と変化する色をつくる。各グループで色が作れたら今度はクラス全員で色相環の順番に並べていく。並び終えたら全員で鑑賞をし、ペットボトルの展示の仕方を考える。

② その他の授業実践

ア デザインの学習で、いろいろな種類の醤油刺しを実際に見せ、どれが使いやすいかをみんなで検証する。

イ「春の新色コレクション2012」と題し、三原色で色をつくっていく。自分で色の名前を考える。

(2) 成果と課題

○成果

・完成した作品を展示する時、教師が考えていた展示方法ではなく、展示の仕方を生徒が自ら考え出してそれを実践した。それは、生徒自身が新たな価値のために創造した瞬間だった。制作した作品を使って卒業アルバムのクラス写真の撮影場所にもなって、学校全体の環境を変えての成果となった。

○課題

・当初はインスタレーションをイメージして、空間を利用した共同制作作品の予定だったが、平面的な作品になってしまい、空間をいかしきれなかった。また純色だけでなく、明度や濁色など様々な範囲があってもよかったと感じている。

2 協議内容

- ・色の学習で暖かく感じる場所、涼しく感じる場所を先生が指定するのではなく、場所もテーマも生徒に考えさせることもできる。
- ・ペットボトルで色水をつくる時、生徒が自らその色の名前を考えることはあったか。
→ジャージの色、ファンタオレンジの色など、生徒自身で色の名前を考えていた。
- ・評価について、どのように評価をつけているのか。
→授業中の様子を見ながら評価していく。振り返りシートの中で、他者理解、自己理解ができていないかを見る。
→鑑賞の観点でみるということだが、ペットボトルをどう使って展示するかなど、発想の観点でも評価できるのではないか。
- ・小学校で行っていた色の学習をもう一度やり直したか。
→言葉としての学習で実体験として学習をしていなかったため、授業の最後に説明をした。
- ・アクリル絵の具、ポスターカラーなど、絵の具の種類と使い方について。
→1 2色のアクリル絵の具を学校で購入する。
→なるべく共通の材料を生徒に使わせたほうが、評価をする時によい。
- ・ペットボトルを使った色相環づくりを小学校で行ったらどうか。遊び道具として使わせて、遊びながら色の勉強ができるのではないか。

3 まとめ

- ・ペットボトルを使った制作と鑑賞の授業を一体化している。鑑賞の授業では、作品を通して他者理解をすることが大切である。
- ・一人ひとりの持ち味をいかすために、話し合いを重視した共同制作をしていく。
- ・思考力、判断力、表現力をつけるために言語活動を行う。
- ・美術は視覚言語だが、自分自身の考えを深めるためには、音声や文章、言葉を使った授業が大切である。
- ・評価については、題材を通して育みたい力を考える。育みたい力は1時間の授業で、1つか2つでよい。
- ・題材を通して4観点をバランスよく配置することが大切である。

提案2

提案者 田所 正志(相模原地区)

<研究主題>

『鑑賞学習がクルリと変わる～生徒の力を引き出す鑑賞学習～

教師が変われば授業が変わる、授業が変われば生徒が変わる』

1 提案内容

教師が教え込む鑑賞学習から、生徒が楽しみ能動的に考える対話型の鑑賞学習をさまざまな実践から提案。対話から「みる・かんがえる・はなす」力を伸ばし、また協同学習を通し共に学び互いに認め合うことによって生徒の学習意欲を高める。

(1) 作品を鑑賞し、五・七・五でまとめる

自分が作品を見て感じ取ったことや友達の発言から気づいたことなどから、作品の主題を考え、限られた語数でまとめる。長い文章で説明するよりも、そぎ落とした短い言葉の中に思いを込めるほうが、気持ちを簡潔に伝えられる。

(2) 実践例

① 「移民の母」 ドロシア・ラング

- ・白黒写真でその主題がダイレクトに伝わり、発見するポイントも多くあるので1年生でも発言が盛んだった。
- ・細部は難しい部分もあるが、1年生も熱心に読み取ろうとして「言葉探し」を楽しむ感覚を味わえた。

② 「雨」 福田平八郎

- ・雨については、個人的な体験が色濃く反映されるようである。大粒の雨の音、暖かい風、土のにおいなどを感じ取る生徒がいる。
- ・この作品の鑑賞活動としては、雨の降り始めをとらえた『動画』としてとらえ、生徒に雨が降ってきたことを感じさせられるとよい。

③ 「おおはしあたけの夕立」 歌川広重

- ・浮世絵の背景として江戸時代の事物を確認する必要性が生じた。いかだ、番傘、ムシロ、下駄など生徒にとってなじみが無く江戸の「粋」や「情緒」までとらえることは難しかったようであった。
- ・音や声を感じ取らせる。

(3) 今後について

生徒たちの最初の印象や考えが、友達との学び合いを通じてどのように変わっていくのか、そのあたりをもっと分析していけたらよい。

2 協議内容（質問と回答）

- ・五・七・五でまとめることについて国語的な力ともとれないか

→考えを深めるためには言葉が必ず必要になる。感じ取ったことを言葉にするとき、いろいろな言葉の中から生徒たちは考え選ぶ。そのような過程でより作品についても深められるのではないか。

- ・詩ではなく五・七・五にしたのはなぜか

→鑑賞にもいろいろなやり方があり、インタビューするものや絵画に吹き出しを書き込んで台詞をいれるなど。五・七・五では言葉を選ぶことによって内容に深まりができたのを感じた。

- ・工芸や彫刻作品の鑑賞について

→参考になっているアレナスも立体の鑑賞は難しいと言っているが、本物を見せることや、見せることができなくても本物に近い状態で見せたい。以前彫刻を鑑賞したときはフィギアを削り作品に似せておこなったが、立体作品は平面よりも復元が難しいのであまり実践は行えていない。

・事前の作品説明はどれくらいおこなうのか。

→説明や誘導をおこなったとしても衝撃的な意見がでてきたりする。現在は、教師はできるだけしゃべらないようにしている。

3 まとめ

学級の雰囲気的大事でそれによって生徒同士の学びあい成立しないこともある。語れる集団づくりも大切である。また教師自身が学び成長していくその姿勢が必要である。

◇ 研究協議の柱に即した協議（グループ協議）

○ 言語活動について

- ・言語活動、鑑賞活動などと気負うことなく、普段の表現活動の中に取り入れながらやっていくことが大事なのではないか。自分の作品について説明する、友達作品にアドバイスをする、感想や自分の考えをもつなど。
- ・自分の考えを表すには、ある程度の言語能力が必要だと感じている。言葉や文章にする活動を繰り返し行うことが大切である。
- ・積極的に発言しない生徒でも自分の考えはもっており、頭の中ではいろいろなことを考えている。言葉や文章だけでなく、生徒たちの言葉に表せない感情も教師が拾ってあげていきたい。
- ・子どもの意見を引き出すような、教師側の発問の仕方が大切である。
- ・作品を見た感想を五七五でまとめると思いが分かりやすく伝わる。
- ・鑑賞の授業をする時、生徒に任せっぱなしではなく、美術作品の中で、共通事項はどこにあるのかなど、美術作品の見方の視点を教えることが大切である。
- ・授業の始めの時間などを使って、教師の実体験を伝える。
- ・評価については、ここで何を学んでほしいのかを明確にすることが大切である。
- ・鑑賞の授業を通して、他者理解をすることで自分の感性を広げることができる。

◇ まとめ

- ・子どもの言葉の中から絵を読み取っていくことも大事であり、その子自身も自分で言葉を書くことで整理がなされたり、自分の中でいろいろな発見があったりする。学習のねらいをより充実させるために言語活動を使っていくことが大切である。
- ・生徒一人ひとりが創造的な活動の喜びを味わえるような授業づくりが大切である。